

市指定文化財「平貝の清水」は、南方町では唯一の清水で昔から「長命の泉」「交流の泉」として地域の人々に親しまれ、別名「姥清水」とも呼ばれていました。干ばつに見舞われたときでも、水の量は変わるこ
とがなく、主にお茶用の水として使われ続けています。



お茶用に最適といわれている平貝清水公園のわき水

高い所を崩して、低い所を埋めて平らにする癖があったことから、いつしか人々から「平貝」と呼ばれるようになりました。その後、貝は伊勢の海へ飛び去ってしまいましたが、今でも池の底には貝殻の跡がはつきりと残っているという「九穴の貝」伝説があります。

ふるさと訪ねある記 24



「平貝清水公園」

所在地：登米市南方町下平貝128番地
問い合わせ：南方総合支所地域生活課産業建設係 ☎ 0220 (58) 2112

清らかな水をたえたこの場所を人々が集う憩いの場にしようと、平成11年にミズバシヨウ、ブナ、カエデ、栗、梅などが植栽され、公園が完成。その木々が四季折々変化に富んだ表情で、訪れる人々を楽しませてくれます。

第16回

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト



金賞に選ばれた岩淵さんの作品「群飛び」。大空に向かって飛び立つカモの群れを望遠レンズで的確にとらえ、ボリュームと迫力を感じさせたことが評価されました

渡り鳥の宝庫として有名な「伊豆沼・内沼」を題材に伊豆沼・内沼フォトコンテストが実施されました。

16回目となった今回の応募総数は84点で、市内の入賞者は次のとおりです（敬称略）。

- 金賞（栗原市長賞）
『群飛び』 岩淵良弘（石越町第四区）
- 銀賞（若柳観光協会会長賞）
『冬の華』 佐藤文昭（迫町鉄砲丁）
- 銀賞（登米市観光物産協会会長賞）
『朝日を浴びて』 佐藤磨（中田町新田）
- 銅賞（河北新報社賞）
『漁師が行く』 梶原宗孝（東和町米川第8区）
- 入選
『光彩』 熊谷忠浩（迫町上葉の木沢）

歴史博物館

広報ミニ展示室^①

=佐沼巨理家の享保雛=



享保年間（1716～36）に流行した享保雛。博物館に3月18日まで展示しています

佐沼巨理家のひな人形は、享保年間（1716～36）に流行したものです。男雛は両袖が張られ足の裏を合わせており、女雛は宝冠を付け、五衣・唐衣姿でひざがふっくらしているなど、いずれも「享保雛」の特徴を表しています。写実的な面持ちと精巧なつくり、かさねの色目、刺繍の文様、道具の飾りなどすべてが、女兒の幸福を願う「めでた尽くし」に仕上がっています。数年に一度しか飾られませんが、人形研究においても貴重なため、次世代へと大事に引き継ぎたいものです。

編集室から

▼新しい年を迎えたいと思っ
ていたからあつという間に3月。入学、入
社など新年度に備えて慌ただしい
時期になりました。今年も暖冬と
あって、例年より早い桜の開花が
見込まれています。市内には桜の
名所がたくさんありますが、自宅
（南方）近くにある「桜ロード」の
ピンク色のアーチは鮮やかです。
▼先日、市民の方から係に激励の
はがきが届きました。このような
お便りは大変ありがたいことで、
大きな力となっています。（金井）